

# 「小阪修平 かく語りき！」

日時：11月20日（日曜）17時より

場所：香川県国分寺町国分2080 宝林寺  
駐車場有り

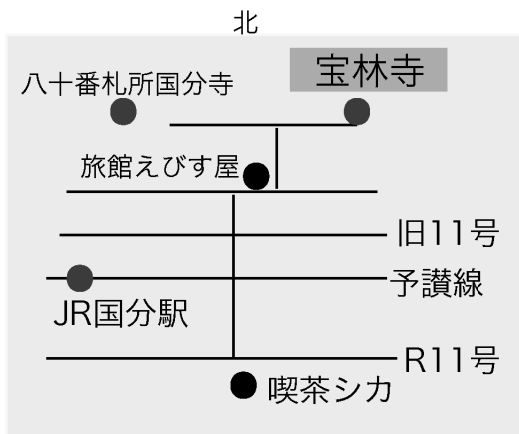
## 小阪修平氏とは

哲学者・哲学を中心に幅広く評論活動を展開して、ことに難解に陥りがちな哲学を、水準を落とさずに、平易に解説することには定評があり、哲学ブームのきっかけをつくった。

プログラム 17時～18時：講演/ 18時～19時：座談/ 19時～：交流会

参加費 講演：1000円/ 交流会：2000円 学生以下講演会は無料

交流会に御参加の方はご一報下さい 問い合わせ先：087-874-1132 宝林寺  
(ほうりんじ)



小阪修平主著

- ・「そうだったのか現代思想—ニーチェからフーコーまで 講談社プラスアルファ文庫」
- ・「図解雑学 現代思想 図解雑学シリーズ」
- ・「哲学の基礎の基礎「ほんとうの自分」とは何なのだろう 講談社プラスアルファ文庫」
- ・「考える力がつく「論文」の書き方」
- ・「自分という「もんだい」—“私”と“世界”をめぐる哲学ノート」
- ・「徹底討論「自己」から「世界」へ」
- ・「わかりたいあなたのための現代思想・入門 宝島社文庫」
- ・「わかりたいあなたのための現代思想入門 2 日本編 (2) 別冊宝島 52」
- ・「現代社会のゆくえ 彩流社」
- ・「哲学通になる本 オーエス出版」
- ・「はじめて読む現代思想〈1〉水源篇—真理なき時代の哲学 GEIBUN LIBRARY」
- ・「イラスト西洋哲学史 宝島社」
- ・「市民社会と理念の解体 彩流社」
- ・「コンテンポラリー・ファイル—醒めない夢の時代を読む 彩流社」
- ・「非在の海—三島由紀夫と戦後社会のニヒリズム」

開催にあたり

Webの中に小阪氏の「引きこもり」と「教養」と題される文章がある。

たとえば、「引きこもり」というのはどういう人間のあり方なのだろうか。わたしは「引きこもり」をイコオル社会からの脱落とは思わないが、「引きこもり」は現代人の社会とのかかわり方を象徴している状態の一つである。で始まる言葉はさまざまな関係と状況の中にある「引きこもり（社会現象）」を哲学者ならでの言葉で語る、しかし難解ではない心地よいリズムがあり誰にも何処にも矛先は向けていない、だが炯眼鋭い剣先は見えるのである。言葉は続く。だから「引きこもり」が表現していることは、わたし<sup>じいぶん</sup>たちの社会で関係の「場」がひとに苦痛をあたえるものになっていること、深い肯定の力を失っていることである。でなければどうしてこれほど人びとが「癒し」をもとめるのだろうか。～中略～かつて「教養」は他者と対話するための共通の基盤を提供していた。それだけではなく、「教養」は読むこと書くことをつうじて自己との対話の基盤であった。その意味で「教養」とはただ知識を身につけることではなく、自分自身をつくりなすこと、と続ける。

小阪氏の云わんとすることをここに入れ込むのは私には技量不足ではあるが、この世で寺を預かっている者として「縁」の一つとなり衆生の五大願につながればとの思いで開催するのです。

「引きこもり」と「教養」<http://siniapowerd.hp.infoseek.co.jp/hikikomori.html> より引用

宝林寺サイトURL <http://www.hourinji.net> E-mail [hourinji@inter7.jp](mailto:hourinji@inter7.jp)

宝林寺住職 童銅啓純